

ブロックでアートを  
芸術をもっと身近に感じる  
ブロックアート

地域交流センター



**Close up! NUA-ism**

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG

深めていく……

水野佐紀

NUA-Student

デザイン領域 メディアデザインコース 4年

佐原由菜

**News/Topics**

ニュース&トピックス

音楽領域

■ 大坂昌彦氏 公開講座

「ジャズからポップスまで、  
ドラムスとアンサンブルの研究」

■ 第40回定期演奏会を開催しました

■ 室内楽の夕べ2017を開催しました

人間発達学部

■ 授業レポート

「保育内容演習 環境」

「ネイチャーゲームで五感を磨く」

美術領域・デザイン領域

■ 2017年度

アート&デザインセンター企画展

「GROOVISIONS NUA」

■ 旧加藤邸アートプロジェクト2017

記憶の庭で遊ぶ

■ テキスタイルデザインコース公開講座

「シンポジウム テキスタイル産地のこれから  
ローカル&グローバル」

■ 特別客員教授 高橋久雄氏 講演会

「フランス中世壁画修復の現状と  
ユルスリーヌ塔フレスコ壁画創作」

名古屋芸大グループ校特集

■ クリエイション

年長児の遊びを作り出す力

コラム NUA

気がつけば43年!!

美術領域教授 大橋 廣

**Master Artist**

マスターアーティスト

走り続けて

音楽領域 弦管打コース 教授

名古屋フィルハーモニー交響楽団

コンサートマスター

日比浩一

**Information**

インフォメーション

■ 出版

■ 2017年度オープンキャンパス日程

■ 第45回 名古屋芸術大学卒業制作展

■ 第22回 名古屋芸術大学大学院修了制作展

■ 2017年度音楽領域演奏会スケジュール(予定)

# 名古屋芸術大学グループ 42 通信

42  
January  
2018

Feature

「確かな専門性 +  
豊かな感性」を持つ教育者へ

## 人間発達学部 子ども発達学科

2018年度より、  
新たなカリキュラムを導入

 名古屋芸術大学グループ  
<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 学部学科：芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学保育専門学校  
美術研究科 音楽領域 デザイン領域 ■名古屋芸術大学附属クリエイション  
デザイン研究科 美術領域 芸術教育領域 ■滝子幼稚園 ■たせこ幼児園  
人間発達学研究科 人間発達学部 子ども発達学科 ■慶知保育園 ■名古屋音楽学校

「確かな専門性＋豊かな感性」を持つ教育者へ

## 人間発達学部 子ども発達学科

2018年度より、新たなカリキュラムを導入

子どもファンデーション（1年次）と4つのコース（2年次選択）、  
8つの専門領域ゼミ（3・4年次）へ

人間発達学部 子ども発達学科では、2018年度入学生から新たなカリキュラムを導入します。1年次には「子どもファンデーション」で、子どもに関する幅広い知識と技能を修得、4年間の学びの目的と自分の興味を明確にし、なりたい自分になるための基礎を培います。2年次からは、「保育・幼児教育コース」「学校教育コース」「発達福祉コース」「子ども芸術コース」の4つのコース制を採り、専門に学び始めます。3・4年次には、8つの「専門領域ゼミナール」で、2年次の各コースの学びをさらに充実・発展させ、専門制をより深いものへと導きます。人間発達学部では、こうしたカリキュラムを経て得意分野を身につけ、自らの資質を磨きます。カリキュラム変更について、現在、準備の最終段階ですが、その背景と目的についてご紹介します。



人間発達学部長 教授  
星野英五

## 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、 3免から脱皮なんですよ

でしか認められません。ぎりぎりですが、大丈夫かなと考えています。3免を取得できるという体制は継続していく予定です。今現在、学生の6割ほどが3免をと考えているようですが、実際のところ2年生のあたりからだんだん減ってきているのが現状です。気が変わってしまう学生もいますし、より専門性を高めた教育者を育成するというのは時代の流れでもあります。個人にも、時代にも臨機応変に対応していける制度としなければならないと考えています。3免を取得した4年生の学生に、3つの免許が本当に必要だったか尋ねると、そんなことなかったという声が聞かれます。そうしたことを見つめ直すための子どもファンデーションであり、4コース制、専門ゼミです。3免を希望して入学してみて、仕切り直して考えることのできるカリキュラムです。

就職先を見ていただきたいのですが、実際には、教育関係よりも、福祉関係に就職する学生が多くいます。特に児童養護施設や保育所ですが、特に男子学生に多く見られます。保育者不足もあって、養護施設関係は特に男子学生にとって、非常に人気のある職業になっています。「発達福祉コース」では、障害を持った子ども、児童虐待や貧困など社会的養護を必要とする子どもについて理論と実践を学び、そうした子どもに「能力と意欲」をもたらす援護者を育成することを目指します。それから、もうひとつ「子ども芸術コース」芸術学部の先生方からは、ここがメインだといわれています。

### 子ども目線に立てる教育者を

「子ども芸術コース」、これまで芸大の中にある人間発達学部だったのに、関連が薄いように感じていました

芸大という環境を最大限、生かしたコースです。教育というと、いつてしまえばどの大学でも同じようなカリキュラムの内容になってしまいますが、本学ならではのプラスアルファを考えたとき、子ども芸術コースが一番の強みになるのではないかと考えています。全学総合共通科目に「子どもの発達と芸術」という科目があるのですが、15回の講座のうち5回を私が担当しています。全学共通なので、2/3ほどが芸術学部の学生なんです。その講座で、クリエイティブ幼稚園の子どもたちと一緒にパソコンを使って音楽をつくるということをやりましたが、芸術学部の学生の方が子どもの扱いが上手というか、先生目線で見ないから一緒に遊ぼうという感覚なんです。子どもと同じ目線に立てる、芸術というのは子どもにとって必要なだと実感しました。こうしたことを人間発達の学生が見て、あまり先生目線になってもいけないと気づいてくれればと思っています。絵が上手なことや歌が上手ということは子どもに対して、とても魅力的なこと。学生自身が、芸術の素養を育み、教育者として人間としての土台づくりを行うことができるコースになっていけるようにしていきたいです。幅広い人間性が本学のよいところだと思いますので、そういうところを大事にしていきたいと考えています。

### これからの保育士には より高い専門性が求められる

子どもファンデーションについてお伺いします。芸術学部の全学総合共通科目のような、またデザイン領域のファンデーションや美術領域のアートクリエイターコースのような、いろいろ試してみて自分についてや将来について、考えるという目的なのでしょうか？

2年次から、4つのコースに分かれますが、その土台となる部分ですね。自分はどこが向いているのか、明確にして欲しいと考えています。時代の流れといえますか、今後、保育士資格も幼稚園教諭と同じように1種、2種と分かれることも考えられますし、保育所だけでなく乳児院や児童養護施設などで働く施設保育士など、保育といっても幅広くそれぞれに専門制が求められるようになっていくと考えられています。保育士という職業が、これまでの保母さんのものから専門職へと変わろうとしています。そうした背景があり時代に合わせた、カリキュラムの改革なんです。

### 3免をさらに押し進めて考えてみる

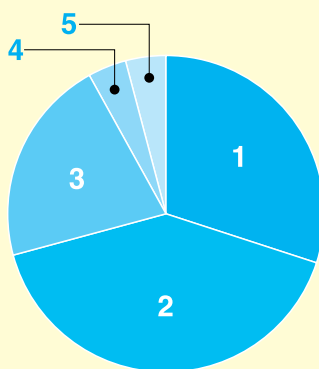
これまで、人間発達学部では、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の3免が取得できるということが大きなポイントでした。そこはどうなるのでしょうか？

3免を希望する学生には、「保育・幼児教育コース」に入ってもらい、しっかりやらしてもらおうと考えています。全部で160単位ほど必要となりますが、履修制限で年間48単位ま

### 児童養護施設などの 福祉関係に多く就職

4つのコースについて、「保育・幼児教育コース」「学校教育コース」この2つは保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のためのコースですね。「発達福祉コース」「子ども芸術コース」について教えてください

卒業後の進路 (2016年度)



- 1 教育関係…30%  
愛知県・三重県・岐阜県他公立小学校/公・私立幼稚園  
認定こども園 他
- 2 福祉関係…41%  
公・私立保育所/児童養護施設/学童保育所 他
- 3 一般企業…21%  
小売業/サービス業/郵便業/製造業
- 4 進学…4%  
愛知教育大学大学院 他
- 5 その他…4%  
結婚、家事手伝いなど

# 確かな専門性+豊かな感性を育む4年間のカリキュラム。

芸術系総合大学ならではの、一人ひとりの感性や想像力を大切にする環境で、子どもたちと感動を共有できる心の豊かさを育むのが、本学部特有の学びです。保育・教育の高い専門性を習得し、芸術学部と共通の「全学総合共通科目」を横断的に学び、幅広い知識、社会に求められるスキルをじっくりと身につけます。

## 1年次

NEW

## 2年次

学科基礎科目

### 子ども・ファンデーション

乳幼児から青年期までの子どもに関する幅広い知識と技能を学びながら、目的を明確にし、なりたい自分の基礎を培います。音楽・美術・デザインの専門教員による授業も含め、芸術的感性と素養を育てます。

【専門科目】

子ども学総論/保育原論/社会福祉/保育の心理学1/音楽/図面工作/生活/保育内容演習/保育内容総論/ピアノ実習1/ピアノ実習2/造形実技1/体育実技1など

【全学総合共通科目】

大学生になる/情報メディア演習1/日本語表現/英語1/英語2/コミュニケーション英語1/コミュニケーション英語2/音楽の世界/舞台芸術概論/自分を知る心理学/児童文学論/アートプロジェクト1/アートと教・図形

### 基礎ゼミナール(入門演習)

大学での学習や生活、保育・教育に必要な基礎知識や技術・観察・



研究の進め方を学びます。さらに、レポートやレジュメの書き方、グループディスカッション、イベントの企画・運営のスキルなども身につけます。

2年次より4コースから選択

### 保育・幼児教育コース

0~6歳までの子どもの遊びや生活文化について学ぶコース。人生で重要な基礎段階にある年齢の子どもに興味や環境などについて、主体的・体験的に学びを深め、充実した保育を構成できる専門性・実践力を習得します。



### 学校教育コース

6~12歳までの子どもの学校での学びや生活について幅広く学ぶコース。学校・子ども・家庭・社会などを「学校生活」という視点から考察し、先生たちが日常の教育活動をどう行うべきか学びながら小学校教員をめざします。



### 発達福祉コース

0~18歳までの子どもの発達と障がい、児童福祉の問題などを学ぶコース。個性を尊重し成長するための支援、子どもの貧困や児童虐待などに問題意識を向け、福祉や発達支援の専門的施設・機関に足を運び学びを深めます。



### 子ども芸術コース

0~12歳までの子どもの音楽・美術活動を、優れた芸術的環境の中で学ぶコース。芸術的環境の中で自分自身を磨きながら、また保育・教育現場に足を運んで子どもの豊かな感性を育むための援助を考えます。



## 自分の特技を生かせる選抜方法

-入試の選考方法で変わることはあるのですか？

今まで通りのAOのプレゼン入試と、一般入試でも国語と英語だけではなく、国語と実技という組み合わせでも可能です。プレゼンは、音楽(独唱、弾き歌い、ピアノなど楽器演奏)、絵本・物語・紙芝居などの読み聞かせ、絵画・造形物などのプレゼンと、自分の特技が生かせるようになっていきます。未定なのですが、来年度からは、吹奏楽部 特定入試とい

うのものを考えています。音楽領域で、高校の吹奏楽部の指導を行っています。専門の音大に進むより将来を考えて保育・教育関係に進みたいという高校生がいます。こうした高校生に、高校時代打ち込んできた吹奏楽を生かした仕組みというのを設けようと考えています。本学には、特別指定クラブとして「吹奏楽部」「ゴスペル」「ビッグバンド」「動画漫画研究部」「LEGO部」があります。入学後も、こうしたクラブや専門科目を履修することで、自分の好きなことを続け、芸術学部の学生と一緒により深めていくことができます。

-どんな学生が育ってほしいですか？

他所からきた先生に、本学の学生は素直な子が多い、ピュアな子が多い、とよくいわれます。校風でしょうか、のんびりとした雰囲気は私が学生だったころから変わりません。子どもを上から叱りつけるような人にはなっていないかと願っています。そのために、自由に臨機応変に対応していける仕組みをつくってきたいと思っています。

-ありがとうございました

## 取得できる3つの免許・資格

### 保育士（保育士資格）

保育所・こども園で活躍する保育士になるための資格です。また、児童福祉施設・児童養護施設など、子どもの福祉や教育に関する高度な専門性を必要とされる仕事をめざす際にも、有効となる資格です。

### 幼稚園教諭（幼稚園教諭一種免許状）

文部科学省管轄の公立・私立幼稚園の教諭となるために必要な免許です。免許取得のためには、4年制大学で定められた科目の履修、所定の単位の取得、大学卒業が必須条件とされています。

### 小学校教諭（小学校教諭一種免許状）

公立および私立小学校の教員になるために必要な免許です。免許取得のためには、4年制大学で定められた科目の履修、所定の単位の取得、大学卒業が必須条件とされています。

## 3・4年次

### ●主な授業

保育者論  
子どもの保健I  
乳児保健I  
ピア/実習3  
保育指導法  
子どもの食と栄養  
保育の心理学II など

### ●主な授業

教育原論  
教職論  
発達心理学  
音楽科指導法  
教育課程論  
国語  
算数 など

### ●主な授業

発達心理学  
保育指導法  
教育原論  
障害児保育（障害児教育）  
子どもの保健I  
子どもの保健II  
乳児保育I など

### ●主な授業

保育者論  
発達心理学  
子ども文化創造論  
造形実技2  
保育指導法  
体育実技2 など

## 8つの「専門領域ゼミナール」

2年次での各コースの学びを、さらに充実・発展させるため、3・4年次には、8つのゼミナールから自分の興味に応じて学びを選択し、専門性を深めます。得意分野（オンラインワンスキル）を身につけながら、自らの素質を磨きます。

### 乳幼児の教育と保育

基礎となる理論や研究にあたりながら、子どもと保育に関わる現在の課題を理解。子どもの育ちや取り巻く環境に関心を持ち、課題の解決策を探ると同時に自身の保育観・子ども観を構築します。

### 子どもの生活と教育

学校教育や保育の充実に加え、子どもたちの家庭や地域での生活の充実もまた、子どもの成長発達につながります。そのため、子どもたちが過ごす余暇の時間や環境について調査・研究を行います。

### 子どもと福祉

乳幼児期から青年期の子どもの育つ環境や子育て支援、障がい児への支援などについて福祉的な視点から学習。児童福祉施設の訪問などを通して社会問題の背景や支援について考察を深めます。

### 子どもと美術

子どもたちが「つくる楽しさ」を感じられる素材や適した用具を使い、さまざまな造形表現の実験や研究、作品制作を実施。子どもの成長・発達との関係や、豊かな心を育む造形表現を追求します。

### 子どもと学校

不登校やいじめの問題、子どもの学力低下や規範意識の低下、保護者の過度な要求など、学校で起こる問題を学習。実際の教育現場で行われている教育活動を、実地研究を通して体感します。

### 子どもの発達と障がい

教育・保育に関連する視点から、子どもの発達と大人を含めたさまざまな障がいについて、専門的な学びを深めます。科学的かつ社会的視野から捉える姿勢と能力を身につけることが目標です。

### 子どもと音楽

子どもの発達にとって、乳幼児期から児童期にかけて、幼保小が連携した教育が大切。そのなかでも大きな存在となるのが音楽教育です。教育・保育の本質や目的から、音楽教育のあり方を考えます。

### 子どもとメディア

さまざまなメディアの登場により、子どもの置かれる環境が大きく変化しています。メディアが教育・保育分野に及ぼす影響を検討し、子どもにとって適切なメディアの活用方を学びます。

## 期待される将来像

### ◎期待される進路

保育所/幼稚園  
認定こども園 など

### ◎取得可能な資格

保育士  
幼稚園教諭

### ◎期待される進路

小学校 など

### ◎取得可能な資格

小学校教諭

### ◎期待される進路

保育所/児童養護施設  
乳児院/幼稚園/小学校  
児童発達支援センター  
障がい児入所施設 など

### ◎取得可能な資格

保育士  
幼稚園教諭

### ◎期待される進路

保育所/幼稚園  
小学校  
児童養護施設 など

### ◎取得可能な資格

保育士

## 特別指定クラブ

専門分野とは別に、自分の好きなことを続けてほしい—そんな願いが詰まった5つのクラブ。名古屋芸大生であれば、誰もが学部や領域を超えて自由に活動できる、もう1つの表現の場です。

### 吹奏楽部

吹奏楽の授業とは別の、自分たちが思うように音楽を楽しめるクラブです。本学の音楽領域に在籍するプロの音楽家たちが指導陣。充実した環境の中で、高い演奏レベルをめざします。名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの演奏会やレコーディングで演奏できるチャンスも。

### ゴスペル

歌が好きな人へ。一緒に歌いながら社会貢献活動を進めていきましょう。

### ビッグバンド

ポップス・ジャズプレイヤー募集。専門コースの演奏会にコラボ出演の機会も。

### 動画漫画研究部

マンガ・イラストを描くことが好きな人へ。プロの指導を受けられるチャンスも。

### LEGO部

発想力、想像力、問題解決力、3次元的思考力を磨く。作品コンテストにも出場。



ブロックアート  
地域交流センター



地域交流センターには、名古屋城をはじめとする市内のランドマークを再現したブロックの展示も



細かなパーツの組み合わせで構成されているホテルは、名芸大ブロックアート教室によるオリジナル作品。大人でも制作に30分～1時間程かかる精密なもの



「納屋橋ホテル」ホテル作り教室開催

11/25、26、12/2、3、9、10の6日間にわたり、ホテル作り教室を開催。小学生を対象に、納屋橋ホテルで放流するホテルの制作を行いました。専門のスタッフが指導し、説明書を見ながらホテルをブロックで制作します。不慣れな子でも、1時間程度で完成。一度、作ってみると要領がわかり、2つ目、3つ目と、1人でたくさんのホテルを制作する子も現れました。子どもの付き添いで訪れた保護者の方も、一緒に参加。他の参加者と交流するなど、和気あいあいとした様子が見られました。取材当日、テラス納屋橋にショッピングに訪れた人が、ブロックの展示に気が付き、ブロックアート教室の説明に耳を傾ける方が、何人もいらっしゃいました。地域交流センターとして、さらなるPRの必要性和ポテンシャルの高さがうかがえました。



慣れてくると、一人で何個も作れるように

理事長、学長の強い思いで  
実現できました



企画室長

小久保純一

-テラス納屋橋の地域交流センターが、9/29にオープンしました。どういう経緯があったのでしょうか？

名古屋市が後押しする形で、納屋橋再開発の計画がありました。物販だけでなく、文化的要素が強く求められ、施設全体の魅力向上のために本学の進出に期待が寄せられました。その状況を踏まえ、理事長、学長の両者から、名古屋市内に出て行くこと、それにより地域と大学の連携ができる、ぜひ進めて欲しいとの言葉をいただきました。はじめ、サテライトを作ろうという考えもありましたが、他の大学でもサテライト的なものが名古屋市内にはありますし、もっと明確に特徴を打ち出し

ていこうということになり、ブロックアート教室を中心とした地域交流センターを開設することになりました。

-なぜブロックアートに？

海外では、ブロックアートが芸術の1ジャンルとして認知されていますが、国内ではまだまだです。絵画であれ音楽であれ、創作活動を行うには、それなりに道具や練習が必要になります。ところがブロックであれば、練習しなくてもすぐできる、それこそ子どもでもできる。しかも、いつでもはじめられ、分解して何度でも使える。こうしたことで、気軽に触れることができ、アートへの敷居が低

芸術をもっと身近に感じる  
ブロックでアートを



放たれたホタルはサンタやトナカイに扮した学生らが回収。見た目にも楽しいクリスマスイベントになりました



放流に先立ち、共催の広小路西一丁目商店街振興組合長さんと本学の学長からごあいさつがありました



「ホタル作り教室」で作ったブロックのホタルは、LEDが仕込まれた防水のカプセルに入れられ放流。水に反応して光ります



投げ入れる時のかけ声「ホ〜リ〜ゴ〜ン！」は堀川のイメージキャラクター「ホリゴン」とクリスマスの「ホーリー」を掛け合わせたとのこと

きれいな堀川を取り戻したい「納屋橋ホタル」を開催

12/22(金)、ブロックで作った光るホタルを、堀川に放流するイベント「納屋橋ホタル」が開催され、ブロックのホタル作りに参加していただいたお子さんやご家族がカプセルに入ったホタルの放流を行いました。納屋橋界隈のイルミネーションが輝く中、光るホタルが堀川に流され、さらびやかな風景となりました。本学理事長、学長も訪れ、歓声を上げる子どもたちの声とともに和やかな催しとなりました。食事や雑貨が楽しめるナイトマーケット「なやぼし夜イチ」に訪れた方も数多く見学に訪れ、スマートフォンを片手に撮影する人も見られました。放たれたブロックのホタルは、サンタやトナカイに扮した学生らがスタンドアップパドルやボートを使って回収。その様子も、楽しいものとなりました。「納屋橋ホタル」は、恒例のイベントとして定着するよう、来年度以降も継続して行なっていきます。

くなるだろうと考えました。日本ではまだまだあまり認知されていないブロックアートに注目することで市民の関心も高まりますし、レゴランドもある。まずは、ブロックアートを教えられる場を作り、それを入り口にしてアートへの関心を高めていこう、アートに気軽に触れられる場を提供していこうと思っています。

ブロックアート教室のほかにも、なにか企画しているそうですね

手始めに、名古屋市の「商店街にぎわい創出支援事業」で商店街を巻き込んだ活性化事業を申請し、採択されました。ブロックア

トで地元のランドマークを作品にし、店舗のウィンドウなどに飾ってもらうようにします。さらに、堀川にホタルが息できる環境を取り戻し人々が憩える場所にしようと願いを込めて、ブロックで作るLEDで光るホタルを放流するイベント「納屋橋ホタル」を行いました。今年は、はじめてなので500セット、ブロックを準備しましたが、来年度以降も継続して続けていこうと考えています。ホタル作りは、小学生の子どもたちに限定していますが、ブロックアートは指を使うことで認知症予防にもなります。全国には、年齢に関係なくブロックのコミュニティがたくさんあります。そういった方たちが集まれる場所は、イ

ンターネット上にはありますが、実社会にはありません。作品を作っても見せられる場所がありませんし、コンテストなどありません。この地域交流センターがそういった場所になれば、非常に意義のあることではないかと考えています。また、ブロック以外でも、このスペースをギャラリーとして活用して作品を展示したり、表のテラスで演奏会ができたりします。アート・マーケットの開催も可能です。ブロックを入り口としながらも、地域の方々に、美術、音楽、さまざまなジャンルの芸術に触れられる場になっていきたいと考えています。



水野 佐紀 YouTubeチャンネル。「30代はピアニストとしてもっと掘り下げたいなと思っています」

ピアノ科の同期と演奏会を企画。「学生時代を過ぎ、それぞれがあらゆる分野で活躍していますが、いつまでも演奏できる仲間がいることは喜びです」



### 深めていく……

優秀な成績で大学院を修了、間もなくコンクールでの受賞、本学助手として後輩の育成にも務め、ピアニストとして順風満帆。経歴を伺う限り、そう見える。努力家であることは間違いないだろうが、さぞや才能あふれる、天性に恵まれた方なのだろうと想像した。しかし、お話を聞いてみれば、それは単純な見方でしかないとわかった。

「2年が終わって3年になる前、春休みですね、手を痛めて1年休学してるんです。親指の腱鞘炎、ド・ケルバン病っていうんですけど、レッスンを受けられるというか授業を継続できる状態ではなくなりました。要領も悪かったんですけど、理性と感情のバランスが非常に悪かった。今思えば、なるべくしてなったなと思います」



本学の音楽教育OGである母親の手ほどきで、幼い頃からピアノを始める。しかし、ピアノを真剣にやろうと考えてはいなかったという。「高校は普通科へいきました。人生の価値基準というのが、勉強していい大学に入っていい職業に就けばいいと思っていました。高校に入って勉強しているうちにやっぱり自分がやりたいことを勉強する方がいいだろうと思うことがあって、それから自分がやりたいことを探しました。そうして、音楽が好きだということに気が付いて、高校2年になってから、ピアノを真剣にやろうと思いました。それまで先生といえるのは母だけで、そのままでは音大などとても無理だったので、母が大学時代にお世話になった岡由美子先生に相談しました。普通なら断られてもおかしくないですよ。そのときはわからなかったんですけど、今思えば、急なお願いに門を開いてくれたことをすごく感謝しています」一途な性格もあって、がむしゃらに練習した。なんとか受験にも間に合っ、本学に進んだ。

「よくわからないまま音大に入ってしまった。



聴いてもらう人にベクトルの向いた演奏家になりたい。演奏に自信がないということは自分の問題だからそれは頑張るしかない、その上で、お客さまに対する演奏家というのを尊敬しています

## Vol.85 NUA-OG 水野佐紀

(みずの さき)  
ピアニスト



- 1987年 愛知県生まれ
- 2012年 大学院音楽研究科器楽専攻ピアノ/領域修了 学長賞受賞  
音楽学部 契約助手として勤務  
クオリア音楽フェスティバル第3回オーデション 一般部門特別賞
- 2013年 第1回山田貞夫音楽賞特選受賞  
新進演奏家コンサートにてセントラル愛知交響楽団とベートーヴェンピアノ協奏曲第4番を共演
- 2014年 岐阜国際音楽コンクール(ピアノ部門) 一般部門第3位  
第14回中部ショパンピアノコンクール 銅賞  
ウィーンインターナショナル夏期講習会にてトーマス・クロイツベルガー氏の指導を受ける
- 2016年 ショパン音楽大学春期ピアノセミナーにてピートル・パレチニ氏の指導を受け同セミナー修了演奏会に出演  
ピアノリサイタル開催

岡由美子氏、ファルバイ・シャンドール氏に師事。現在、ソロをはじめ器楽伴奏、アンサンブル等の演奏活動、また、ピアノ講師として指導を務める。



ポーランドのセミナーに参加した際、プロテスタントの教会で修了演奏会に参加。「海外に行くことが好きなので、プライベートや音楽を通して、いろんな国に行けたらいいなと思っています」



第1回山田貞夫音楽賞を受賞した際、出演した演奏会でコンチェルトを演奏。「プロの演奏家の方と共演できることが夢のようで、本番までの毎日が緊張の連続でした。この経験が、自分にとっての大きな糧となっています」



大学2年生、大学主催のサマーコンサートにて、同期と撮った1コマ。「ピアノ科の同期とは仲が良く、振り返ればどんときも楽しい時間でした」

周りには小さい頃からやっている子たちがたくさんいました」通常、周りが皆、上手く見えコンプレックスを持つものだが、そんなことはなかった。「フランクな学年というか仲良く和気藹々としていて、音楽高校から来た子たちが、わからないまま来た子たちを率先して引っ張ってってくれました。私は、皆、すごい人たちだと思ったから、なんとかして行ってやろうと、逆にちょっと攻撃的というかそんなふうを考えていました」そうして、前述の通り、身体を痛めてしまう。



演奏家としてやっていこうと意識したのは、学生時代でも、院に進んでからでもなく、助手を務めているときだったという。「自分というのは、すごくへなちょこんだとわかったんですよ(笑)。授業の伴奏など、できないことが多くて行くのに必死。死ぬほど頑張らないと務まらないぞと、助手のときが一番練習しました。たぶんあの2年間

がないと、今の自分はないと思います」学生時代とは異なり、スケールの大きな曲を、短期間で仕上げなければならない。プロの世界なら当然なのだが、短い時間で人を魅了する完成度まで仕上げなければならない。「仕事だからやらなければならない。プライドもあるからやらなければならない。怖くしてしょうがないからとにかくやる。どの分野でも同じだと思いますが、わからない、怖い、どうしよう、死にそう、みたいな。夢の中でもピアノが鳴っていました」甲斐あって、そのときの演奏が一番いい演奏ができたと言懐する。



プロとなって5年が過ぎ、考えることにも変化が出てきたという。「よりマイペースになったというか、大学を卒業して音楽だけの環境じゃなくなって、社会に自分が出て行っていろいろな人に出会う中で音楽以外の世界も知るようになりました。そうしたことを経験して、ひとついえることは『深めていかなきゃいけない』ということです。20代の頃は、来た仕事を断らずに手当たり次第に引き受けてやってきました。そのとき、やっぱり間に合わずにいい演奏ができないことや、満足いく仕事ができなかったということもありました。仕事量も大事ですけど、お客さまに良かったと思われる演奏をしないとプロ失格です。お客さまに音楽を提示してそれで食べていくのがプロだと思うんですけど、だったらやっぱりよりいい仕事をしたい。そうでなければお客さまに対して申し訳ないです。ある意味で仕事というのではなくライフワークというか、そういうふうを考えるようになりました」

自分のことを「ひとつの事象があるなら、プラスアルファで二つのことを持って帰りたい、欲深い人間なんです」と笑うが、成長したいと学び続ける姿勢、自分をより高めたいと考え続けている姿勢に感銘を受けた。



## 自分のやりたいこと



Vol.86  
NUA-Student  
佐原由菜

(さばら ゆうな)  
デザイン領域  
メディアデザインコース 4年

### コマ撮りアニメーション「小竜とたまご」



コンピューター  
の類は一切使  
用せず、コマ撮  
りの技法を使っ  
て制作した



パッケージキャラクター「モーモーファミリー」  
パッケージデザインの課題の際「北海道パニパー」  
のキャラクターとして制作した。牧場の仲間というテ  
イストで複数のキャラクターと、各キャラクターでい  
つかのカットを用意した

### 絵本作品「モコ」



未就学児、小学校低学年の  
子どもに読み聞かせる想定で  
制作した絵本。ストーリー、構  
成、キャラクターデザインから、  
絵本の制作までおこなった

### アニメーション「dim room」



デジタルツールを使用して  
制作した手描きアニメー  
ション。先に考案したストー  
リーをもとにキャラクターと  
絵コンテを制作し、CLIP  
STUDIO PAINT で描いた  
静止画を Photoshop で加工  
し Premiere で動画編集した

### メディアデザインコースってどんなことするの？

動画コンテンツがメインですね。映像作品や、サウンドなどをやります。私は、4年生なので、今は卒業制作のアニメーションを作っています。デジタルが多いですが、平面も立体も使うので、作品形態は幅広いです。

### （ポートフォリオを見せてもらう）絵がいいね！

課題で作った絵本です。製本も自分でやったのであまりキレイじゃないですけど……。自分で本を作って子どもに読み聞かせをしたいなと思ってこういう絵本を作りました。

### イラストもいいね。イラストコースじゃないんだ

最初は、絵を描くのが好きだったのでイラストコースに入ろうと思っていたんですよ。それで、コース紹介のときにアニメーションもいくつか見せてもらって、絵を描くのも好きですけど、動画とかアニメーションも見るのが好きでそういう勉強してみたいというか、課題の中で自分で制作してみたいと思い、メディアデザインを選びました。

### 4年生だと、就職は？ アニメーター？

デザイン会社に内定をいただきました。動物園とか水族館で売っているグッズのデザインをしている会社です。Illustratorで絵を描いたり、広告を作ったりする仕事をやっていくのだと思います。

### アニメの仕事に就いてみたいと思わなかった？

そういう気は、じつは全然なかったんです、アニメは自分の趣味の延長というか。仕事として興味が無いわけじゃないんですけど、仕事になってしまうと大変だろうなと。処遇の話なんか聞きますよね。アニメは仕事にするのではなく、自分の趣味の中で続けていけたらと考えています。実際、働き始めたら大変だろうと思いますけど……

### 就活はどうだったの。苦労した？

それが、会社をその1社しか受けてないんですよ。みんな、3年の後期あたりから就職活動を始める

じゃないですか。私は、全然やってなくて、それで今年の5月かな、終わりに近いに学生課に会社のことが出て推薦が一枠あるからそれを決めるとい募集があったんです。それで、その会社のことを調べました。そうしたらその会社の商品がなんとなくピンときて、自分がやりたいことがわかっていなかったんですけど、こういう感じかな、と思ったので、そこを受けてみようかと。それが6月です。仕事としてやりたいことや、希望があれば、いっぱい調べて何社も受けるということができたんですけど、そういうのが全くなかった……。会社の説明会に出てそのあとすぐ試験があって、受けたら内定をもらったという感じだったので、なんか、ごめんなさい(笑)

### 絵はいつ頃から。やっぱり小さいときから？

小学校に行く前からそうですね、動物とかが好きだったので、小さい Mascot 系のアニメとか漫画とか読んだらそれを真似して描いたりとかしていました。ポケモン、めっちゃ描いてました(笑)

### 高校も美術科に？

高校は、デザインとか全然関係なく、家庭科系の調理とか被服とか、そういう関係です。勉強があまり得意ではなかったので、普通科じゃない方がいいんじゃないかということになり、私の成績で入れる高校に生活文化科という普通科ではない科があったので、そこなら勉強とは別に自分の好きな絵も続けられるだろうし、勉強もそんなに無理せず、という感じで先生に勧められました。私も全然進路のことを考えていなかったんで、勧められるままに入ったという感じです。大学に行くなら、デザインとか絵の勉強ができる場所しかないだろうなという気持ちではいたんですけど、絵の勉強を全然したことなくて、独学で自分の好きな絵を描いているだけでした。高校3年になって、ぎりぎりになって進路を決めて、美大にいきたいならデッサンをやらなきゃということで、高校のときの美術の先生に協力してもらって練習しました。(笑)

### 大学は入ってみてどうだった？

こういうところで絵を1から教わるということもなかったんで、良かったです。メディアデザインコースに入って、パソコンのソフトの使い方とか、そういうところを教わったこともやっぱり良かったなと思います。IllustratorとPhotoshop、就職してからも使いますので。メディアデザインコースは自分の好きなようにできる、すごくそう思いました。一つの課題の中でもいろんな手段があるというか。コラボレーション課題という自分で誰か相手を探して連絡を取ってその人とコラボレーションするみたいなそういうザックリした枠組みの課題があったんですが、その中で私は絵本を作って読み聞かせをしました。一つの課題の中で自分の好きなことができるというか、複合的な要素があって自分のやりたいことをすすんでやれます。雑誌を制作する課題も、それぞれのグループで自分たちのやりたいことをやる。私もやりたいことをやらせてもらいました。自分の好きなことがはっきりしていらすすごく楽しいコースだなと思います。

### ファンデーションはどうだった？

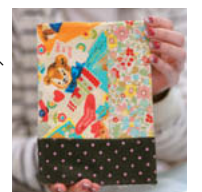
1年のときはやっぱり絵を描くのが楽しいなと思いました。立体とかも石こうで作ったりしましたが……。

### 目覚めちゃったりとかなかったの？

全くないです(笑) ダメなものはダメだと思って！

中学や高校の授業でも立体は苦手だなと思っていて、やらされそうになると一生懸命逃げていました(笑)

やりたいことがわからないなんていつても、やりたいくないことははっきりしてるんだ！(笑)



ハンドメイドのブックカバー。高校の生活文化科で学んだことはやっぱり趣味になっている。「学んだことは、自分の一部になっているのかな」

# News & ニュース&トピックス Topics

## 音楽領域

### 大坂昌彦氏 公開講座 「ジャズからポップスまで、 ドラムスと アンサンブルの研究」

2017年11月9日(木)、本学東キャンパス2号館大アンサンブル室で、ドラマーの大坂昌彦氏をお迎えして公開講座「ジャズからポップスまで、ドラムスとアンサンブルの研究」を開催しました。

この公開講座は、本学芸術学部芸術学科音楽領域ポップス・ロック&パフォーマンスコースの主催によるもので、上田浩司教授がホストを務め、大坂氏による演奏、トーク、学生バンドのクリニックという流れで進められました。

講座に先立ち、上田教授は「スイングジャーナル誌の人気投票で、16年間にわたりドラム部門の1位を獲得する人気と実力を兼ね備えた日本を代表するドラマーです。」と大坂氏を紹介しました。

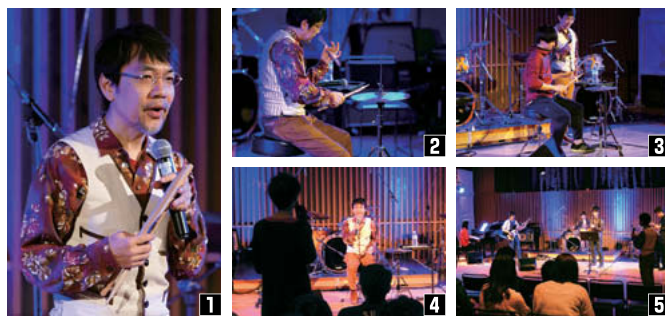
上田教授の挨拶のあと、大坂氏が登壇。ハイハットひとつだけを使う「ミスターハイハット」を演

奏しました。ハイハットをさまざまな奏法で叩くことでひとつの曲にしてしまう、名人芸といえるもの。確かなリズム感と鮮やかなテクニック、1音1音の粒立ち、音切れの良さ、息を飲む演奏でした。

続いて、上田教授とのトークです。音楽は、生まれる時代背景や流行などと密接な関係があり、歴史を学ぶことでより深く学ぶことができますと話します。本学にルーディメンツクラブ（ルーディメンツはスネア・ドラムの基本奏法のひとつ）があることに喜び、部員である学生が飛び入り参加して演奏。ジャズの打楽器は、米国の南北戦争にルーツをたどることができると解説し、ルーディメンツの発達と歴史を交えて説明しました。

さらに、ポピュラーミュージックやジャズを学ぶ意味として、音楽を広く知ることの意義を説明。プロの現場では、幅広いアイデアが求められ、音楽的に広い知識があればその場でアイデアを提供できるようなことになること。さらに、海外のプロデューサーやアレンジャーにはドラマーやベーシスト出身者が多く、その理由として自分を抑えて他者をプロデュースできると説明します。

また、レコーディングやステージの現場の話として、日本国内には50名以上の外国人ミュージシ



1 スティックを手に大坂昌彦氏登壇。ハイハットという楽器の発展の歴史を説明  
2 ハイハットのみをさまざまな奏法で叩く「ミスターハイハット」を演奏  
3 ルーディメンツクラブの学生が飛び入り参加。腕前を披露  
4 質疑応答。作曲をやっている学生から、ドラマーはどう考えて曲にアプローチするかを質問。作曲も行う大坂氏は、ピアノで作曲するが、作っている途中でドラムを叩いてみると、新しいアイデアが閃き、曲のアレンジなどにつなげると返答  
5 クリニック、1組目のバンドの演奏。テンポを遅くして、もう一度丁寧に演奏するよう指示。演奏に加え、アレンジもメリハリを付けるよう多くのアドバイスを与える

ャンが居住しており、英語でのコミュニケーションが重要になってきている。ことにホーンセクションのスタジオミュージシャンには米国人が多く、英語が共通語となっていると説明しました。

さらに、特にドラマー、ボーカリストに望むこととして、音楽についてよく知ることを強く求めました。海外のボーカリストには譜面を読める人が少なく、音楽についてよく知ることで、仮歌の仕事やCMソングの仕事など、多くの機会が増えると話します。

質疑応答では、はじめに大坂氏から学生に、ポップスとジャズどちらでやっていきたいかと逆質問。ジャズという反応が多く、笑顔を見せました。「音楽業界は、以前

にくらべ芳しいものではなくなりましたが、その分、好きだからやっているという人が増えた。どの分野でも同じだと思うが、純粹に好きでやっている、ということが増えている」と現状を話しました。

最後は、2組の学生バンドが演奏を行い、クリニックとなりました。具体的に曲の部分を指定して修正するなどしたほか、丁寧に演奏することの重要性を、また、バンドのサウンド全体を見渡し、バランスを考えること、バランス感覚を養ってサウンドデザインを考えることの重要性を説明しました。

具体的な指導内容に加え、音楽全体の捉え方、プロの世界の話など、多くの示唆に富む非常に意義深い講座となりました。

## 音楽領域

### 第40回定期演奏会を 開催しました

2017年11月16日(木)、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで、名古屋芸術大学 第40回定期演奏会を開催しました。

この演奏会は、音楽領域の各コース（声楽・鍵盤楽器・弦管打ほか）からオーディションで選抜された学生が、研鑽の成果を学外の

ホールで披露するものです。

プログラムは、前半が電子オルガン（2名）、バストロンボーン、ピアノ、サクソフォーン、ピアノ、オーボエ、ソプラノで、8名が演奏し、休憩を挟んで後半は、ピアノ、フルート、ピアノ、フルート、ピアノ、ソプラノ、クラリネットの演奏で、7名が出演しました。

学生にとって、このような一般に公開されたホールで演奏できることは、今後の学習の大きな励



1 バストロンボーンの演奏  
2 サクソフォーンの演奏  
3 ピアノ演奏  
4 フルートの演奏  
5 ソプラノ演奏

みとなり、さらに、自信にも繋がります。

緊張しながらも一生懸命演奏する学生の姿が印象的でした。

## 音楽領域

### 室内楽の夕べ2017を 開催しました

2017年11月28日(火)、室内楽の夕べ（第一夜）を名古屋伏見の電気文化会館ザ・コンサートホールで、12月5日(火)、室内楽の夕べ（第二夜）を本学東キャンパス3号館ホールで、それぞれ開演しました。

室内楽の夕べ（第一夜）は、二台ピアノによる演奏が前半、後半ともに数組ずつ行われ、華麗な響

き・ドラマチックな表現・息を呑むような掛け合いがみられました。また、フルート、トランペット、トロンボーン、ホルン、チューバ、オーボエ、クラリネットなどの楽器で、様々な編成による演奏が行われました。出演者は、オーディションで選ばれた学生が中心で、一部、院生・研究生・卒業生が加わりました。

室内楽の夕べ（第二夜）は、音楽領域の依田嘉明主任教授の司会進行で行われ、演奏の前後に、ア



1 2台ピアノによる演奏（第一夜）  
2 フルートの演奏（第一夜）  
3 パーカッションアンサンブル（第二夜）  
4 フルートアンサンブル（第二夜）  
5 ブラスアンサンブル（第二夜）

ンサンブルの代表や指揮者による演奏曲の解説がありました。前半は、学生によるパーカッ

ンアンサンブルで幕を上げ、続いて、院生や卒業生で構成された楽団「MK室内楽団」の演奏が行

われ、サクソフーンカルテットによる演奏と続きました。休憩を挟んで後半は、中編成に

よるアンサンブルで、クラリネットアンサンブル(指揮:竹内雅一)、フルートアンサンブル(指揮:高

木直樹)、ブラスアンサンブル(指揮:星順治)が演奏され、本学の担当教授が指揮を執りました。

両会場ともに、満席の来場者からは惜しめない拍手が送られていました。

人間発達学部

授業レポート  
『『保育内容演習 環境』『ネイチャーゲームで五感を磨く』』

幼児達は屋外に出ると、五感をフルに働かせて様々なものに関心を示します。それは、目に留まったものであり、音や匂いであったりします。

そこで、「保育内容演習 環境」の授業の中で、五感を研ぎ澄ましていく自然体験あそび「ネイチャーゲーム」を行いました。「体でピン!」(1分間目を綴じ

て感じたことを書き出してみよう)や、「ハンター」(1分間目を綴じて聞こえてきた音そのものごとばにして書き出してみよう)のような課題が出され、1分後に1人1人カードに書き出したら、グループの中で紹介し合います。自分の感じなかったこと、聴き取れなかった音なども紹介されて、一層五感を研ぎ澄まそうと意欲的になっていきます。

この他にも「お空の写真館」(雲を見上げて何を連想したかを書き出してみよう)、「落し物名探偵」(うつ伏せになった状態の草地上何が見えたか書き出してみよう)



1 この姿は居眠りではありません。1分間目を閉じて感じたことや聴こえた音をことば表現しようとしているところ  
2 顔を突き合わせて紹介し合っている様子  
3 ことばにしたものを授業通信としてまとめたものです。60人で出し合うと、こんなにも豊かに自然を多角的に感じ、ことで豊かに表現していけるのです

にも取り組みたかったのですが、今年は条件が整わず残念でした。最後の「見つけた!」では、グループごとにテーマを決めて(例えば「ピンクのものを見つけ」「冬のものを見つけ」など)探し、誰

のものが一番テーマに相応しいものとして見つけたのかを選びます。このように、自然を味わう楽しさを実感し、保育に生かせるようにしていきます。

デザイン領域

2017年度  
アート&デザインセンター  
企画展  
[GROOVISIONS NUA]

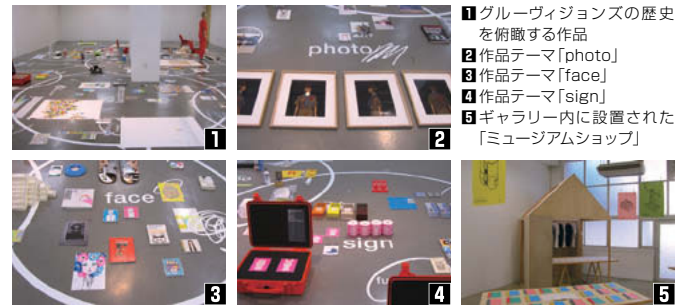
2017年10月28日(土)から11月8日(水)まで、本学西キャンパスのアート&デザインセンターで、同センターの本年度の企画展である「GROOVISIONS NUA」を開催しました。

グルーヴィジョンズは、1993年に活動を開始したデザインチームです。クラブでのVJを出発点に、ピチカート・ファイヴのステージビジュアルなどで注目を集め、着せ替えキャラクター「Chappie(チャッピー)」で一世を風靡しました。その作風は、非常に二次元的

でありながら、アウトプットのメディアは多岐にわたります。グラフィックやモーショングラフィックを中心に、音楽、出版、プロダクト、インテリア、ファッション、ウェブなど様々な領域を横断しながら、自在に活動を展開してきました。デザインの領域が広域化する今、彼らのこうした軽やかなアプローチは、デザインの幅広い展開力、デザインと社会のつながり方、デザインの楽しさなど、ビジュアルコミュニケーションの新たな可能性を感じさせます。

今回の展覧会では、こうしたグルーヴィジョンズの歴史を俯瞰する作品と共に、本学学生とのプロジェクトの成果も合わせて展示されました。

初日の10月28日は、アートデ



1 グルーヴィジョンズの歴史を俯瞰する作品  
2 作品テーマ「photo」  
3 作品テーマ「face」  
4 作品テーマ「sign」  
5 ギャラリー内に設置された「ミュージアムショップ」

イレクターでGROOVISIONS代表の伊藤弘氏と内古閑智之氏のトークイベントが行われました。

メインギャラリー BEには、グルーヴィジョンズのこれまでの作品が、壁ではなく床を使って、テーマ(photo, object, sign, human, face, typo...)ごとに分かれて展示されるというユニークな構成となっていました。

ビジュアルデザインコースを中心とした本学学生とのコラボ作品は、ギャラリー内に設置された「ミュージアムショップ」にグッズとして、Tシャツ・角をカットしたカラフルなノート・缶バッジなどの展示、販売もされました。また期間中、センター内のラウンジでは学生が本格的なカフェ(cafe LABO)も運営しました。

美術領域 デザイン領域

旧加藤邸  
アートプロジェクト2017  
記憶の庭で遊ぶ

北名古屋市にある、国登録有形文化財「旧加藤家住宅」の建物や庭を舞台に、本学の学生や卒業生がアート作品を展示する「旧加藤邸アートプロジェクト2017 記憶の庭で遊ぶ」を2017年11月4日(土)~11月12日(日)まで開催しました。芸術やデザインを探究する学生や卒業生が、旧加藤家住宅という場から触発されたイメージが、「記憶」をキーワードに、どのような造形となりこの場の記憶を新たにすることを目的とした展覧会です。8回目を迎えた今年の展覧会に

は、美術学部の卒業生4名と、学生7名の作品が展示され、参加作家全員のポートフォリオも自由に閲覧できるように展示されました。

初日の11月4日(土)にはプロジェクト実行委員会の西村教授の司会進行によるオープニングセレモニーとアーティストトークが行われ、11月5日(日)には、音楽領域音楽ケアデザインコースの学生・卒業生・教員による音楽パフォーマンスがあり、様々な楽器を使った懐かしい演奏が行われました。

認知症予防の効果が期待される「回想法」センターを併設するこの会場での展覧会には期間中、大勢の市民の方が訪れ、純和風の建物の母屋や縁側、はなれに展示された作品を見て楽しんでいました。

作家名	所属	作品名
川井 梨沙	アートクリエイターコース卒業	おはようから、おやすみまで。
木下 千穂	彫刻クラス4年	子どものころのお話
刑部ちひろ	美術文化クラス2年	ひびく
平田あすか	版画コース卒業	朝月夜/取り出された記憶
浅野 克海	洋画2コース卒業	それはそこにあり続ける
伊藤みのり	コミュニケーションアートクラス3年	うっすらぼんやりと
吉長 佑衣	ガラスクラス3年	小さな悪戯
西村 美香	コミュニケーションアートクラス3年	逢着する
山本真弥生	アートクリエイターコース卒業	ぶち my room
参加者全員	参加作家のポートフォリオ	
増岡 美紀	日本画コース2年	日々
タナカえん	立体造形コース卒業	ごうら ごうら

4 出品作家・所属・作品名  
1 平田あすか「朝月夜/取り出された記憶」  
2 浅野克海「それはそこにあり続ける」  
3 伊藤みのり「うっすらぼんやりと」  
4 増岡美紀「日々」  
5 タナカえん「ごうらごうら」  
6 旧加藤邸、正門から母屋を望む



## デザイン領域

### テキスタイルデザインコース 公開講座「シンポジウム テキスタイル産地のこれから ローカル&グローバル」

2017年11月21日(火)、本学西キャンパスB棟大講義室にて、芸術学部芸術学科デザイン領域テキスタイルデザインコース主催の公開講座「シンポジウム テキスタイル産地のこれから ローカル&グローバル」を開催しました。本学が取り組んできた地元テキスタイル産地との産学連携プロジェクトの一環として行われたもので、2017年度特別客員教授の齋藤統氏と2016年度特別客員教授の宮浦晋哉氏、本学卒業生の小島日和氏(terihaeru/canale2/NINOW代表)、田畑知著氏(中外国島株式会社)、小野圭耶氏(東播染工株式会社)を迎えて、テキスタイル産地のこれからについて考える内容です。

会場には、テキスタイルデザインコースの学生によるテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab」で制作された生地サンプルも展示され、学生に加え、多くの業界関係者も来場し、デザイナー、製造メーカー、小売業者などが一堂に会する場となりました。

はじめに扇教授から、本学テキスタイルデザインコースの、羊毛をカットして毛糸を、綿花を育てて綿を収穫し木綿を制作する、素材制作から取り組むカリキュラムを紹介し、さらに有松絞り、名古屋帽子、尾州産地といった地場織

維産業との産学連携事業、「NUA textile lab」などを紹介しました。

宮浦晋哉氏は、杉野服飾大学卒業後渡英してLondon College of Fashionで学んだこと、さらに日本製の生地が高く評価されていることを知り、国内の産地に興味を持ったことなどが説明されました。

本学卒業生の小島日和氏は、在学中に出会った有限会社カナレの足立聖氏のこと、織物産地とアパレルの関係性の問題点などを紹介しました。

田畑知著氏も、本学テキスタイルデザインコースの卒業生。一度社会に出てから、再度大学で学ぶという経歴を説明し、学生時代に参加した、一宮地場産業ファッションデザインセンターが行うデザイナー育成事業「翔工房」について経験したことを紹介しました。

小島氏、田畑氏よりも早くから織物産地との関わりを持つ小野圭耶氏は、播州産地(兵庫県西脇市)の職人との出会い、下請け仕事を中心となっていることへの疑問と問題について説明しました。

続いて再度、小島日和氏が登壇し、東京・代官山のクラブヒルサイドサロンで開催された若手産地デザイナーによる合同展示会「NINOW.(ニナウ)」について、発起人である小島氏が、実現までのプロセスや当日の様子、反省点などを報告しました。

最後は、齋藤統氏が登壇し、若手の活動を評価し、日本には優れた技術があるもののソフト面が不足しているなど、問題を提起。ま



- 1 扇教授。産学連携授業について説明
- 2 宮浦晋哉氏。国内の産地に取り組むことになった経緯を紹介
- 3 小島日和氏。有限会社カナレの足立聖氏との出会いについて説明
- 4 田畑知著氏。大学に入り直してテキスタイルに取り組むことになった経緯を紹介
- 5 小野圭耶氏。「考える工場」という概念を提示
- 6 齋藤統氏。日本には優れた技術があるもののソフト面が不足している問題提起
- 7 サンプルを手にとって熱心に見入る方も
- 8 質疑応答。それぞれの立場から見た具体性のある質問や意見が出されました

た、オールジャパンで海外市場へ売り込む戦略など現在の活動に触れ、通訳を通さず説明できる語学力が重要だと説明しました。

後半は宮浦氏が進行役となり、NINOWの反響についてから始まりました。テキスタイルの世界では、企業名より先にデザイナー個人の名前が出ることはないので、デザイナーや製造の現場にとって大きな刺激になったことなどが語られました。反面、産地ではアパレルデザイナーが求めているものを意識しないままデザインしており、今後、摺り合わせが必要、といった反省の言葉も聞かれました。

齋藤氏からは、NYの展示会ではその場で商談が成立することもあるなど、米国、欧州、日本の商習慣の違いについて話があり、日本独自の「消化仕入れ」(陳列する商品の所有権を卸業者やメーカーに残しておき、小売業者で売上が計上されたと同時に仕入れが計上される取引形態)について紹介

し、目利きとしての質の問題や在庫リスクの責任についてなど、知っておくべき商習慣について、また、インターネットによる生地の販売など、新しいことを受け入れていくことの重要性などについても語られました。

扇教授からは、欧米に対してデザイナー個人の発想力は決して劣っているわけではなく、アイデアを生かすための土壌や仕組みが不足しているという発言がありました。

質疑応答では、洋服を購入する顧客に対してデザイナーや産地を前面に出していくための方法についての質問や、尾州の織物を高級品としてアピールすることを中心に考えているが、安価なものもたくさん製造しておりもっと幅の広い視野で見たいなどといった意見が出されました。

業界関係者、若手テキスタイルデザイナー、学生が交わり合う、非常に有意義なシンポジウムとなりました。

## 美術領域

### 特別客員教授 高橋久雄氏 講演会 「フランス中世壁画修復の 現状とユルスリーヌ塔 フレスコ壁画創作」

2017年11月15日(水)、本学西キャンパスB棟大講義室にて本学特別客員教授である高橋久雄氏の講演会「フランス中世壁画修復の現状とユルスリーヌ塔フレスコ壁画創作」を行いました。

講演に先立ち日本画の荒木紀江

准教授から講演のテーマ及び講師の紹介があり、「高橋久雄先生は、25年を超える長きにわたり本学でフレスコ壁画制作の授業、デジョン国立美術学校との姉妹校締結への架け橋、日本画コースでフランス・ジェラン村にあるサン・

ピエール教会壁画模写、シャロン大聖堂壁画「聖母のお眠り」模写と現地での展覧会の実施に於いてご尽力された」と報告しました。会場には高橋先生の壁画創作に参加した本学卒業生の岡本昌子氏、赤井恵子氏が駆けつけ、その時の

## Column NUA No.39

### 気がつけば43年!!

美術領域教授 大橋 廣

冒頭から私事をお話します。今年は、名芸大教員生活43年目ラストイヤーを送っています。43年前、27歳で初めて名芸大教員というまともな職業に就きました。名芸大が初の卒業生を出した次の年の事です。

私が名芸大に入って最初にびっくりした出来事は、現在の日本画棟が、まだなくて平屋のバラックで学生食堂だった時の出来事です。4月に着任、2週間が過ぎたころ、一人で昼食をしていると、ごっつい一人の男

が私に近づいて来て「オイ、お前サッカーをした事があるか」と聞かれ、「ウン、少しはあるよ。」と答えたら「よし!サッカー部に入れ!」と部活に勧誘されました。完全に新入生に間違われたのでした。その頃は、浪人生が多く、オッサンみたいな学生も多かったです。名芸大最初の忘れられない思い出です。美術学部、音楽学部の2学部で入学生が共に約100名の頃の話です。

私の専門は保健体育です。その頃は体育実技1年半、そして保健体育講義が半年の授業で共に必修だったので学生とのつき合いも2年間ありました。入学生が少い事と、主に私が一人で両科目担当していたので、学生全員の名前と顔と性格まで知っているのが自慢

でした。

着任して授業で一番びっくりしたのが体育実技でした。美術学部はサッカー、音楽学部はバレーボールの2種目だけでそして用具はサッカーボール5個位、音楽のバレーボールはまともに使用できるのは2.3個という現状でした。大学に掛け合い、後期よりソフトボール、バスケットボール、テニスも出来るようになりました。もちろんその頃の西キャンパスは体育館もなく、草原のようなグラウンドだけの時代です。仕方なく私が2年目より始めたのは、用具も施設もなくても出来る学外授業でした。現在イタリア在住の彫刻家で少し前に名芸大特別客員教授も勤めてくれた、スキー

感想が語られました。

〔高橋久雄氏は、武蔵野美術大学を卒業後、フレスコ画という建築と絵画が融合したモニュメンタルな世界に惹かれフランス国立美術大学へ留学。フレスコ壁画の技法を習得した後、歴史建造物の壁画修復の道へ進み独立。外国人修復家は珍しく、周囲の信頼を得るまでに長く苦しい道程であったが、レジョン・ド・ヌール勲章を受けるまでになる。修復を続けながら、画家としての作品を中世の建物に残したいというかつてからの願望が膨らみ、20年前ブルゴーニュの古都オートタンにあるユルスリーヌ塔（12世紀の建築で14～15世紀にかけてはブルゴーニュ公の居城の一つであった）を取得するが、仏国歴史記念建造物の指定を受けていた為、制作の

許可には10年を要した。2010年、念願の自画制作プロジェクトが始まり現在制作中である。〕

講演会は、前半が「フランス中世壁画修復の現状」について、後半が「ユルスリーヌ塔フレスコ壁画創作」で、現地での映像を映しながら詳しく解説しました。

壁画修復の現状では「修復前」と「修復後」を対比して見せながら、どこに気を付けてどのように修復したかについて話して頂きました。壁画は時代背景と共に何層にも絵が描き重ねられていたり、壁画を漆喰で塗りつぶされている場合も多いそうです。何層もの漆喰を手術用のメスで少しずつ剥がしていく作業は、気の遠くなるような時間を要します。壁の状態は皆同じではなく手で触れただけで



1 講演前の高橋先生  
2 修復前の壁画  
3 修復後の壁画  
4 ユルスリーヌ塔  
5 壁画創作の指導をする高橋先生

崩れ落ちるほどに痛んでいる場合もあり、一瞬の油断も許されません。長く緊張と忍耐の続く作業となります。修復され息を吹き返した中世の壁画が会場のスクリーンに映し出されていました。

後半の「ユルスリーヌ塔フレスコ壁画創作」では、最初にご自身の城（ユルスリーヌ塔）の全景や最上階（屋上）からの近隣の様子などが紹介され、その後、塔内

の様子が映し出されました。高橋氏は多くの努力と年月の末に手に入れたユルスリーヌ塔とその付属小聖堂への壁画創作を、芸術を志す日仏の学生たちと共有する道を選んでいきます。本学からもたくさんの学生、卒業生がこのプロジェクトに参加しています。

最後に高橋氏が設立したユルスリーヌ国際文化センターの取り組みを紹介し講演を終了しました。

### 名古屋芸大グループ校特集

#### クリエ幼稚園

#### 年長児の遊びを作り出す力

年長ゆり組では、自由あそびの時間に4月からお店屋さんごっこを楽しむ姿が見られました。始めは2人の女の子が、ドミノをクッキーに見立て「クッキーはいかがですか?」という遊びからスタートしました。2人の楽しそうな姿に誘われてお客さん役になってクッキーを買いに行くことを楽しんでいく子どもたち。

しばらく遊びの様子を見ていると、日に日に遊びが変化していききました。本物に近づけたいという思いがあったようです。日常生活の体験から、スタンプカードやショーケースを作り始めたり、園内の壁や柱に「きてください。〇時から」という貼り紙が貼られたりしていききました。すると、それを見た年少・年中の子どもたちがゆり組の部屋に遊びに来てくれるよ

うになりました。お店にお客さんがたくさん来てくれると接客が忙しい様子を見て、他の遊びをしていた子どもたちが手伝ってくれたり、年長の部屋に入ることに緊張して困った様子の年少さんに声を掛けに行ってくれる子がいたり、クッキーやさんがゆり組全員のお店となっていききました。

6月に入ると、クッキーをドミノではなく、紙粘土で作ってみることになりました。「チョコ味は絶対作りたい」「いちごどとかわいいかも」と、いろいろ考えながら張りきって作っていました。そんな子どもたちのお店屋さんを楽しむ姿から、今年度から新しく「こどもクリエまつり」という行事が生まれました。「クリエまつり」という行事は元々ありましたが、子どもたちは、先生たちが用意した縁日コーナーで遊ぶというものだったため、年長の子も中心となって、計画して作り出す行事として、新たにできたものです。ゆり組では、今まで楽しんできた

「クッキーやさん」と、小さい子も楽しめるようにと「金魚すくいコーナー」と、小さい子がもらってうれしいものということで「しゅりけんやさん」の3つ、同じく年長すみれ組さんの「わたあめやさん」、「たこやきやさん」、「わなげコーナー」3つと合わせて6つの縁日コーナーを作ることになりました。縁日の1つ1つに、小さい子を思いやる心や、楽しめるようにという工夫があり、子どもたちの力には本当に驚くばかりでした。子どもたちが中心となって進めていったこの行事。「お客さんがいっぱいすぎて疲れたけど楽しかった!」と、子どもたちの表情から大成功!の笑顔が見られました。

ドミノをクッキーに見立てたところから始まり、紙粘土で作ったクッキーで遊びましたが、先日つ

いに、「本物のクッキー」作りを体験することができました。自分で作ったクッキーを食べたうれしさ、そして、本物のクッキーを年少・年中さんにプレゼントできた喜びの気持ちでいっぱいでした。年少さんが、クッキーを食べた後、ゆり組の部屋に入ってきて「おいしかったよ」「ありがとう」「本物でうれしかった」とお礼を言いに来てくれたことで、また喜びの実感につながったようです。

“ごっこ”の遊びから本物を作るという体験ができ、私自身も子どもたちと同じようにその世界を心から楽しむことができました。ゆり組の子どもたちは3月に卒園します。それまで、子どもたちの力を信じて、「やってみよう」の気持ちに寄り添っていききたいと思います。



のセミプロの腕前を持つ当時学生であった加藤朝美との出会いもあり、冬休みを利用したスキー教室、海での水泳教室、夏山登山、テニス教室等を1年を通じて実施しました。その中でもスキー教室は年2回バス3台で学生参加100人位で志賀高原スキー場3泊4日で実施しました。他の大学より10人程度指導者を招いて、なおかつ名芸大ゴンススキー部の助けを借りての大掛かりな、楽しい思い出がいっぱいの行事でした。

私が、名芸大に長く勤めて、いちばん得をしたと思っているのは、音楽と美術という芸術に出会えた事とそれを学ぶ学生を知った事です。私は中学・高校と芸

術の成績は、まったく良くなく、好きでもなく、見事なくらい芸術オンチでした。今でも芸術の出来る学生は羨ましいしある種の尊敬の念をいただくことが出来たのです。名芸大に来るまでの私の生活は芸術に関するものは何もなく、スポーツとそれに関する遊びがあれば十分でした。名芸大に来なければきっとオペラも日展も行くことはなかったでしょう。

今、ラストイヤーを迎えて私の一番の財産は、多くの学生と出会えた事です。そして、スキー部、テニス部他、いろいろな部活での合宿や指導、そして多くの学外授業、卒業旅行で行った海外など、楽しい、なつかしい思い出がいっぱいの出来事も私の貴重な財

産です。  
これからの名芸大の発展を信じて!

2017年12月記





関西フィル時代(特別演奏会でベートーヴェンのロマンスを演奏)



1995年 ソロリサイタル

## 日比浩一

(ひび こういち)

音楽領域 弦管打コース 教授  
名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター

1961年	愛知県生まれ	神戸室内合奏団(現・神戸市室内合奏団) ソロヴァイオリン奏者、関西フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターを経て、現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター
1981年	第32回全国学生音楽コンクール西日本大会第2位	
1984年	京都市立芸術大学音楽学部卒業 音楽学部賞を受賞	ヴァイオリンを江口邦子、(故)篠原虎一、(故)岩淵龍太郎の各氏に、室内楽を梅原ひまり、岸邊百百雄の各氏に師事
1991年~2001年	関西フィルハーモニー管弦楽団 コンサートマスター	
2001年~	名古屋フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター	名古屋芸術大学教授、大阪音楽大学特任教授、大阪樟蔭女子大学客員教授、愛知県立芸術大学非常勤講師 (社)日本演奏連盟、宝塚演奏家連盟会員

# マスター to アーティスト 【第39回】

< 走り続けて >



最初の発表会  
(昭和42年12月3日名古屋音楽学校ホールにて)

「僕は、現場で経験を積んできたタイプですね。いろいろな勉強の仕方があって、大学を卒業してから海外へ留学するのと、すぐ現場に立つのと。ウィーンに行ってドイツに行って……。僕もそれがよかったんですけど、すぐに現場に立つことになりました」

コンサートマスター、第1ヴァイオリンの首席奏者で楽員全体の指導的立場にあり、指揮者とオーケストラの橋渡しを行い、意思の疎通を行う。ときには指揮者の代わりを務めることもある。そんな重責を、かれこれ25年以上も担ってきた。現在も教鞭を執りながら、プロの演奏家として舞台に立つことに強いこだわりを持つ。

「分岐点は、高校2年のときにありましたね」 幼いころからヴァイオリンを始める。名古屋市内で生まれ、中学を卒業するまでは名古屋で育ったという。初めて音楽を習ったのは歌だったが、ピアノとヴァイオリンは、30年ほど後に名古屋芸大のグループ校となる名古屋音楽学校だったというからこれも縁である。歌を習い始めたものの、すぐにピアノに変わり、ヴァイオリンに変わった。「僕はピアノがあまり合わなくて、練習も嫌いで。

教室ですからいろいろな楽器をやっていました。そこでヴァイオリンを見て、あれをやってみる、となりました。その後、ここにもいらっしゃった近藤富美子先生にも習っていて、縁を感じますよ」 一途に、ヴァイオリンに進んだかといえそうではなく、中学に入ってからヴァイオリンを止めてしまい、再開したのは高校2年のときだった。「高校の進路指導があって進学としたんですが、端的にいうと成績が悪かった(笑)。先生に『お前、なにか手に職はないか』と聞かれ、ヴァイオリンだと。それで、再び弾き始めました。そうして音大に進みますが、そのときから演奏家になっていくのだろうと。ほかにつぶしが利かないですからね。自然とそうなっていました」

プロとしてのデビューは、大学2年のときだった。「初めてのオーケストラからの仕事は、名フィルから来ました。当時は、慢性的にどのオーケストラでも人手不足で、そのときはヴィオラでした。喜んで新幹線に乗って名古屋へ行きました、故郷ですしね。曲は、ストラヴィンスキーの春の祭典。めちゃくちゃ難しい。外山雄三さんの指揮だったんで

すけど、全然弾けなくて、『とりあえず、ここに座っていて』と弓を浮かせて、エアーですよ。全体の1割くらいしか音を出してなかったですね。二十歳のときの散々なプロデビューです」 その経験が糧になったのかと問えば「やっぱりあんな経験ないですから、奮起というか、自分で何とかしないとイケない、勉強もしなきゃいけないと、思いましたね。ドボンと水の中に放り込まれたようなものです。あの頃は、プロのオーケストラといってもそんな調子でした。とにかく経験して、オーケストラってこういうものなんだ、こういう曲があるんだと。最初は、訳がわかりませんでした」 ほろ苦いデビューだったが、それでもその後、何度も呼ばれて演奏に参加、そのまま演奏家としてやっていくことになった。

プロになって感じたことは、演奏会の多さと忙しさ。学生のころとはペースが全く異なっていた。「学生のころは半年で1曲上げるとかですよ。僕の行った学校は定期演奏会が年2回ほど、たくさん練習してやっとこなして、といった感じでしたが、卒業したらその10倍くらいはやらなきゃいけなくなりました。オーケストラに入るとたくさん公



2011年12月15日 名古屋フィルハーモニー交響楽団「クリスマス・ポップスコンサート2011」にて。於：愛知県芸術劇場コンサートホール



京都市立芸術大学時代。僕が大学に行ったところの同級生や先輩、それから先生も破天荒な人が多かったです。この頃の学生は、皆、真面目ですね。反面、自発性に欠けると言うこともあります

自分ではこういう音が欲しくて、こういう感じに思えるというようなことを伝えて欲しいですね。僕は、それを生かす方向でやりたいと思っています。もっと主張して欲しいと思います



宮川彬良&アンサンブル・ベガ (C)T.Tairadate

Eテレ「クインテット」や「マツケンサンバII」の作曲家として大活躍の作曲家・宮川彬良と彼が絶大な信頼を置く8名のオーケストラ首席プレイヤーらによるアンサンブル。1998年、阪神・淡路大震災からの心の復興を願い宝塚ベガ・ホールに生まれ、公演回数150回！氏は第2ヴァイオリンを勤める



演がありますし、僕、個人としても男性の演奏者が少なかったこともあって、いろいろなところから頼まれたりして、年間150以上の公演をやりました。なにしろ体力が必要でずし、知らない曲もいっぱいあったし、意識は違うし、クオリティも必要だし、とにかく何とかしないとイケないので大変でした」

30歳のとき、関西フィルにコンサートマスターとして加入。当時は月に17回もの公演をこなしたという。「コンサートマスターなんていいますが、中間管理職ですよ(笑)。今ですと大体、オーケストラだと年間100回くらい公演があります。オーケストラに指揮者が付いていますが、外から指揮者が来られる場合も多く、それが年間40、50回。はじめまして、とって合わせてから、普通3日後には演奏会です。音楽なので、おおよその常識はありますが、指揮者にもオーケストラにも個性があります。コンサートマスターの仕事は、指揮者の要望にどう応えるか、接点を見つけて、落とし所を見つける役ですね。リーダー役でもあるのですが、リーダーというより完全に中間管理職です」オーケストラのキャラクターについて伺え

ば、名フィルは和やかで生真面目、関西のオーケストラは個々の自己主張が強く、とりあえず何かいわないと気が済まないフラットな団体、東京はオーケストラが組織化され指揮者と話がしたい場合でも、まずパートリーダーに話し、パートリーダーがコンサートマスターに上げ、休憩の時間に打ち合わせをする、という手順になるそう。これらのことを、電車を待つときのホームの並び方に例えて教えてくれた。名古屋は、関東よりは西よりだが、関西よりも少し礼儀正しいようだ。

学生や若いオケマンと接していて感じるということがあるという。「人間としても演奏としても、型にはまるといふか、妙に空気を読んじまうことを感じます。自分の考えはどうなんだというときに、もうひとつ自発性に欠けるところもあります。オーケストラなんかでも、指揮者のいうことを待っているという場面が増えたような気がします。名古屋とか東京とかでなく、全国的な傾向です。人と一緒にやるということは、自分の考えはこうだとディスカッションしていいものに仕上げていくことで、それが楽しさでもあります。そのため、一時的に衝突があったとしても、しか

るべきことだと思います。それを事前に避ける、そんな感じがします。ちょっと残念ですね」最前線に立つことにこだわり続ける者の言葉は、今の現場を的確に伝えていた。走り続ける重さを感じた。



演奏家に大事なことで何ですか？ 無理に作らないことだと思います。演奏は、出るものだと思うんです。技法としては、いろいろなことを身に付けられるんですけど、その先は自分が出るんですよ、必ず。いくら繕っても、結局みんな演奏には出てしまう。だから無理に妙に作らないこと、素直にやるということだと。それで、あまり気に入って貰えなかったらあきらめる。自分はそう思っています。最後は、自分の今あるものを正直に出す、自分の演奏する、これかありません

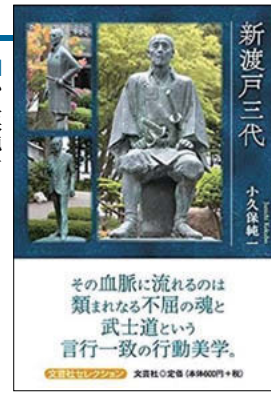
## 2017年度 オープンキャンパス日程

■ 3月 3日(土)  
10:00~16:00

音楽領域    芸術教養領域  
人間発達学部

## 出版

教職員著作の出版物のご紹介です。  
(編集期限までに報告されたもの)



■ 小久保純一  
(名古屋芸術大学企画室長)  
『新渡戸三代』  
発行/文芸社



■ 萩原雄一  
(名古屋芸術大学芸術学部芸術学科  
デザイン領域教授)  
『漱石、百年の恋。子規、最期の恋。』  
発行/未知谷

## 第45回 名古屋芸術大学卒業制作展



2018年2月17日(土)-25日(日) 10:00-18:00

名古屋芸術大学 西キャンパス

〔美術学部 美術学科〕  
日本画、洋画、  
アートクリエイター (彫刻、陶芸・ガラス、コミュニケーションアート、版画・平面、美術文化)  
〔デザイン学部 デザイン学科〕  
ヴィジュアルデザイン、イラストレーション、  
メディアデザイン、メディアコミュニケーションデザイン、  
デザインマネジメント、インダストリアルデザイン、スペースデザイン、  
セラミックデザイン、メタル&ジュエリーデザイン、テキスタイルデザイン

名古屋芸術大学は、今年度のご案内のとおり第45回美術学部・デザイン学部卒業制作展、及び第22回大学院修了制作展を開催致します。在学中、学生たちの成長を見守り、優しく時に厳しくサポート頂きました全ての関係者の皆様方への場をお借りして心からお礼を申し上げます。

さて、名古屋芸大は昨年4月、芸術を携え広く、深く社会に貢献できる人材の養成機能をさらに高めるべく開学以来の大改革に臨みました。従来の音楽、美術、デザインの3学部を1学部1学科に統合し、新たに芸術教養を加えた「芸術学部」が既にスタートしています。これまでの芸術の専門教育研究機関としての蓄積を継承・発展

させながら、今後も国内屈指の総合芸術大学としての特色を生かしながら新たな進化を目指します。皆様方にはこれまでと変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い致します。

尚、本年度の卒業制作展のみ、会場が本学西キャンパスとなっております。従来の美術館展示とは異なる、環境を生かした新鮮な趣向で作品をご覧いただけたと思いますので、大学院修了制作展会場の市民ギャラリー矢田ともどもぜひ足をお運び頂き、さまざまなかたちとなった学生たちの多くの声に五感を傾けて頂きますようお願い申し上げます。

芸術学部長 萩原周

## 卒業制作展記念講演会

入場無料・要整理券

●西キャンパスB棟2F 大講義室 ●定員/各200名



東浩紀  
株式会社  
ゲンロン代表、  
批評家



辻惟雄  
美術史学者

『観光客の哲学』と芸術の使命  
2018年2月18日(日)  
14:00-15:30

“かざり”の生命  
2018年2月24日(日)  
14:00-15:30

## ミニオープンキャンパス

参加自由・無料

2月25日(日) 10:00-16:00

- 進路/入試相談コーナー
- ワークショップ ※数に限りがあります  
(美術) 丸太を切ってコースターをつくろう!  
(デザイン) 自分だけのオリジナルペンダントを作ろう!

インフォメーション

- 学生食堂 10:00-14:00
- 卒業期間限定カフェオープン
- 期間中土日のみ西春駅からシャトルバスを運行

## 第22回 名古屋芸術大学大学院修了制作展

2018年2月27日(火)-3月4日(日) 9:30-19:00(最終日は17:00まで)

名古屋市民ギャラリー矢田

〒461-0047 名古屋市東区大幸南1-1-10 TEL 052-719-0430

## 2017年度 音楽領域演奏会スケジュール(予定)

2月  
第16回 歌曲の夕べ

日時/2018年2月1日(木) 18:30開演  
会場/熱田文化小劇場  
入場料/無料(全自由席)

研究生修了演奏会

日時/2018年2月8日(木) 17:30開演  
会場/熱田文化小劇場  
入場料/無料(全自由席)

大学院音楽研究科特別演奏会

日時/2018年2月10日(土) 14:00開演  
会場/名古屋芸術大学  
東キャンパス 3号館ホール  
入場料/無料(全自由席)

Kaleidoscope2018

日時/2018年2月17日(土) 16:00開演  
会場/名古屋芸術大学  
東キャンパス 2号館 3F  
入場料/無料(全自由席)

ピアノのしらべ 第22回 春のコンサート

日時/2018年2月22日(木) 17:30開演  
会場/熱田文化小劇場  
入場料/無料(全自由席)

オペラ公演 喜歌劇「ころり」

日時/2018年2月24日(土)・25日(日) 15:00開演  
会場/西文化小劇場  
入場料/24日 1,000円 25日 3,000円  
(2日間全自由席)

3月

第20回大学院音楽研究科修了演奏会

日時/2018年3月2日(金) 17:00開演  
会場/三井住友海上 しらかわホール  
入場料/無料(全自由席)

第45回卒業演奏会

日時/2018年3月8日(木) 17:00開演  
会場/三井住友海上 しらかわホール  
入場料/無料(全自由席)

ジャズポップスコース卒業演奏会

日時/2018年3月10日(土) 15:00開演  
会場/名古屋芸術大学  
東キャンパス 3号館ホール  
入場料/無料(全自由席)

ミュージカル公演

日時/2018年3月15日(木) 18:00開演  
会場/アートピアホール(ナディアパーク11F)  
入場料/未定

チケット取り扱い場所

- 名古屋芸術大学音楽学部演奏課  
Tel. 0568-24-5141
  - 名古屋音楽学校  
Tel. 052-973-3456
  - 愛知芸術文化センター B2F プレイガイド  
Tel. 052-972-0430
  - ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド  
Tel. 052-201-5152
  - カワイ名古屋  
Tel. 052-962-3939
- ※一部取り扱いのない公演がございます。

予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。 ●お問合せ先/名古屋芸術大学音楽学部演奏課 Tel. 0568-24-5141



表紙の写真

昨年12月22日に行われたイベント「納屋橋ホタル」。LEDで輝くホタルを子どもたちが堀川に流しました。納屋橋の夜景と相まって、多くの人が観覧に訪れました。詳しくは、6ページで紹介しています。

「名古屋芸大  
グループ通信」  
ウェブサイトを



発行/名古屋芸術大学  
企画・編集/全学広報誌編集委員会  
デザイン/協力:くまな工房一社  
印刷/兼クイックス  
発行日/2018年1月30日

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 広報企画部  
〒481-8502  
愛知県北名古屋市西之庄古井281番地  
電話 0568-24-0359  
FAX 0568-24-0369  
E-mail: grouptu-shin@nuu.ac.jp



大学基準協会の認証評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認証評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになりました。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。